令和７年度美祢市有線テレビ放送番組審議会　会議録（概要）

日　　時　令和 8 年 2 月 18 日（水）10:00～10:45
場　　所　美祢市有線テレビ放送センター2 階　会議室
出席委員　森本委員、末岡委員、豊田委員、波佐間委員、萬代委員、原川委員、
森脇委員、吉野委員、中屋委員、永嶺委員
事 務 局　MYT　三好、三好
デジタル推進部　古屋、新家、藤本、山根

１　開　　会
２　あいさつ
３　番組審議会委員及び事務局職員の紹介
４　美祢市有線テレビ事業報告
（1）加入状況（MYT より報告）
旧美祢市地域の加入戸数減（空き家など）、旧美東・秋芳地域は戸数が減っているので加入率は上がっている
（2）苦情及び意見等（MYT より報告）
特段の意見や苦情はなかった。
（3）年間放送内容（MYT より報告）
特記すべき事項はなかった。
（4）放送事故（MYT より報告）
いわゆる放送事故ではないが、停電後の復旧時に電気的ショックにより光 ONU の故障が継続して発生。中国電力との協議や、断線時の業者による速やかな復旧対応を継続中。
（5）その他
特になし。

５　協議事項
（1）過去 MYT 放送映像に係る意見交換
事前に視聴された「C58 蒸気機関車大作戦！」の映像を中心に、委員から活発な意見交換が行われた。
ア　意見交換の内容
【美祢線の歴史的意義と映像の価値】
・廃線前の美祢線の歴史的役割や地域にとっての意義がよく理解できた。
・大学時代の思い出として美祢線に乗車した経験に触れ、貴重な映像を後世に残すことの重要性を指摘。
・ジオパークとの関連性から、石炭や石灰石といった美祢の資源輸送における鉄道の役割を伝える重要性を強調。特に、石炭の産出が美祢の発展に果たした役割や、石灰石の運搬について、若い世代へ教育を通じた継承を促す意見があった。

【ＭＹＴ番組制作への評価と要望】

・ＭＹＴの特集番組は市内の活動がよくまとまっており、事実を淡々と伝える制作姿勢を評価。特定の思想に偏らずありのままを伝える方針の継続を要望。
・取材の苦労に理解を示しつつ、継続した番組制作への期待を表明。
・桜が咲く時期の SL と観光のコラボレーションへの期待が示された。

【番組内容の改善提案】

・メディアの立場から、密着取材の大変さを理解しつつ、美祢線の意義を伝える写真の活用や市民参加型イベントの報道（塗装イベントなど）を評価。
・市民が主役となる番組作りを求める声があり、県外の意見だけでなく市民の感想をもっと聞くべき、市長の出演は控えめにするべきとの意見があった。
・番組内で事業費に触れることの必要性も指摘。

【機材導入と映像活用】

・ドローン導入による映像の質の向上を提案し、審議会として市への提言を促す意見があった。
・山焼き事故を受け、安全マニュアルについて、紙媒体だけでなく映像化して市民に周知することの有効性を指摘。特に世界ジオパーク認定を控える秋吉台の保全において、映像による啓発が重要であると強調。
・秋吉台の山焼き不実施によるマダニ問題の発生に触れ、自然保全の重要性を改めて指摘した。
・映像制作においては、記念写真のような形式ではなく、自然な言葉や表情を捉えることを要望。
・「ジオパークとは何か」を分かりやすく伝える番組制作の要望。市民がジオパークの内容を具体的に理解し、市外へもその魅力が伝わるような番組の必要性を訴えた。

イ　意見に対する事務局の回答

・ドローン導入について：　事務局より、MYT ではドローンを所有していないが、地元業者への委託実績があることを説明。費用対効果や免許の問題から現状は委託で対応しているが、今後の検討課題とする旨を回答。
・山焼きの安全啓発映像について：　事務局より、MYT では山焼きに関する番組を放送しない方針であるものの、行政側で検討していく旨を回答。
・ジオパーク関連番組について：　事務局はジオパーク推進の重要性を認識しており、繰り返し学習し制作に反映していく考えを示した。

（2）答申案について

令和 7 年 12 月 25 日付けで美祢市長より諮問のあった「有線テレビ放送番組の適正化について」に対し、審議会からの答申案が提示された。 答申案「美祢市有線テレビ自主放送番組の効果的維持確保、公共の増進と文化の向上への最善尽力」について、委員から特段の意見は無く、原案のとおり承認された。

６　そ の 他

（1）現委員の任期が今年度末で満了となることが事務局から報告された。

(2) 地域審議会からの委員は辞退意向を示しており、今後委員の公募を行う方針が決定。⇒令和 8 年 4 月号「げんきみね。」にて公募を行う。

(3) 最先端技術の活用に対応できる新たな人材の確保の重要性が指摘された。事務局は、社会の変化のスピードを敏感に捉え、市民を主役とした広報の提供を目指し、委員からの意見を踏まえて番組作りを進めていくとの考えを示した。

7 閉　　会